

ベトナム商工省がバイオマス発電を DPPA の対象にすることを提案

2025 年 2 月 13 日 作成

カテゴリ ベトナム市場調査 環境・再生可能エネルギー

ベトナム商工省がバイオマス発電を DPPA の対象にすることを提案

ベトナム商工省は、電力直接購入メカニズム（DPPA）を適用し、国の送電網を通じてバイオマス発電を直接売買できるようにすることを提案している。昨年 7 月に政府が公布した政令 80 号では、出力 10MW 以上の風力発電および太陽光発電プロジェクトが、国の電力システムを通じて電力を直接売買されることが許可されている。

商工省は、改正電力法に関する政令の草案の中で、バイオマス発電プロジェクトも DPPA メカニズムに参加することを提案している。風力発電や太陽光発電と同様に、バイオマス発電所も 10MW 以上の出力を備えている場合、国の送電網に接続し、競争的な卸売市場に直接参加することが好ましい。

バイオマス発電は、有機廃棄物（作物、森林、有機廃棄物、農業廃棄物など）を利用して発電する再生可能エネルギーの一種である。商工省電力規制局によると、現在、全国には 10MW を超えるバイオマス発電所が 9 か所稼働しており、総出力は約 332MW である。2030 年までに、さらに 14 のバイオマス発電所が稼働し、電力システムに約 300MW が追加される予定である。

商工省は、バイオマス発電を DPPA に参加させることで、再生可能エネルギー源が多様化し、この売買メカニズムに参加する対象が拡大すると説明している。これにより、バイオマスからの電力生産における新しい、より効率的な技術の適用が促進されるとともに、長期的にはクリーンで持続可能なエネルギーソリューションが追加されることになる。

以上